

1月例会は『ヤング@ハート』

2009年映画ベストテンに投票ください

新年おめでとうございます

昨年の加古川シネマクラブは、一昨年の春からの会員数の減少のため、厳しい運営が続きました。何とかやり繰りをして例会を中心とした活動を行っていますが、赤字に陥る心配から逃れることができません。やはり会員数はあと30人くらい増の200人くらいにならないと、全く余裕がなくなっていく厳しい状態です。会員の皆さんには、会場に置いてあるチラシを持ち帰ってお知り合いの方に配ったり、行事の会場で配布いただくなど、この会の活動をPRいただきますようお願いいたします。

この会の活動が始まって、今年で8年目を迎えます。はじめは、会の運営について不安が多かったのですが、会員の皆さんをはじめ、周囲の皆さんのご支援のおかげで、何とか会の目的にあった活動を続けていることは、感慨深く、新年にあたって感謝の気持ちを持ち続けようと思っています。

世間では、昨年は不況の中、秋の展示会のイベントや観光は、数年ぶりの来訪者数があったようです。多くの人は、生きていく中で、楽しみや感動を求めて行動しているのでしょう。今年も、身近なエンターテイメントである映画文化が発展するために、微力ながらも、映画館に行ったり、作品上映や作品制作に協力したり、クチコミなどで宣伝を行っていきましょう。

例会のお知らせ

■名称／第46回例会『ヤング@ハート』

■日時／2010年1月22日(金) ①PM2:00～、②PM4:20～、③PM6:40～

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

■タイトル／ヤング@ハート

■監督／ティーヴン・ウォーカー

■出演／アイリーン・ホール、スタン・ゴールドマン、フレ



ッド・ニトル

■データ／2007年、イギリス、1時間48分、DVD

■ジャンル／ドキュメンタリー、音楽

■解説／1982年に誕生以来、指揮者のボブ・シルマンに率いられ、ロックンロールなパフォーマンスで、全米のみならずヨーロッパでもツアーを成功させてきたヤング@ハート。米・マサチューセッツ州の小さな町ノーサンプトンに、平均年齢80歳のおじいちゃんとおばあちゃんたちで構成されたコーラス隊が歌うのはクラシックやスタンダードではなく、コールドプレイ、ソニック・ユース、ボブ・ディラン、ジェームズ・ブラウンといったロックやR&Bの曲ばかりだ。年1回のコンサートの前6週間、彼らに密着し、練習、リハーサル、生活の様子から、老いや死の問題に直面しながらも歌うことに情熱を注ぎ、若い心とロックな気概を持ち続けて元気に生きる姿を映し出していく。

2009年映画ベストテンに投票ください

加古川シネマクラブでは、会員からの意見をアンケートやクチコミで聞いたり、ニュースへの投稿をお願いして紹介しています。また、忘年会では、余興として行っている「忘年会で選んだ映画10選」を紹介してきました。

そこで、このたび、会員による映画作品の人気投票を実施してはどうかという意見があり、「加古川シネマクラブ2009年映画ベストテン」を選ぶことになりました。

つきましては、会員の皆さんには投票用紙を送付いたしますので、2009年に上映されていた映画で、邦画と洋画の各5作品までを順位を付けて投票いただきますようお願いいたします。1月末締切りで3月例会までに結果を発表する計画です。

忘年会で選んだ2009年映画10選

12月10日、運営委員を中心とした年末恒例の忘年会を「千年の宴加古川駅北口店」で開催しました。過去最高の15名の参加でした。それぞれの近況を話すなど楽しい時間を過ごしました。

合わせて、5月例会の作品選定と2009年の映画ランキングを決めました。人数が増えると、3つくらいの会話のグループに分かれてしまいます。映画ランキングは、その担当者のいるグループに近い人たちの声が優先されながら進みました。日本映画約20本、外国映画約30本の候補を出し合い、ランキングしたところ、今回は、アメリカ映画のヒューマンドラマが優勢で、前回まで優勢であった日本映画は盛り上がりませんでした。韓国をはじめとするアジア映画は一時の優勢は影を潜め秀作が少なかったようです。

まず、日本映画は、基準作として『沈まぬ太陽』からはじまり、次の基準が『南極料理人』となり、その前後が選ばれました。ライバルが少なく1位が『ディアドクター』となったわけですが、ここ3年間で豊作だっただけに、全体として不作の印象があります。

多くの作品を観た人にとっては、今回は、アメリカやドイツの洋画は秀作が多かったようです。観た人の圧倒的支持で、『扉をたたく人』が1位となり、5月例会作品にも決定しました。知らないうちにあのタランティーノ監督の『イングロリアス・バスターズ』が2位になっていました。ほんとうに構わないのかなあと感じながらも、円満にランキングが決定しました。

このランキングを”忘年会で選んだ2009年映画10選”として紹介します。いろんなご意見もあると思いますが、気になるものがあればDVDなどで確認してみてください。

【邦画の部】

1位『ディアドクター』（監督/西川美和、主演/笑福亭鶴瓶）、2位『沈まぬ太陽』（監督/若松節朗、主演/渡辺謙）、3位『サマーウォーズ』（監督/細田守、アニメーション）、4位『精神』（監督/想田和弘、ドキュメンタリー）、5位『南極料理人』（監督/沖田修一、主演/堺雅人）、6位『禅 ZEN』（監督/高橋伴明、主演/中村勘太郎）、7位『風が強く吹いている』（監督/大森寿美男、主演/小出恵介）、8位『大阪ハムレット』（監督/光石富士朗、主演/松坂慶子）、9位『その木戸を通して』（監督/市川昆、主演/浅野ゆう子）、10位『劔岳 点の記』（監督/木村大作、主演/浅野忠信）、次点『エヴァンゲリオン新劇場版：破』（監督/摩砂雪、アニメーション）

【洋画の部】

1位『扉をたたく人』（アメリカ、監督/トム・マッカーシー、主演/リチャード・ジェンキンス）、2位『イングロリアス・

バスターズ』（アメリカ、監督/クエンティン・タランティーノ、主演/ブラッド・ピット）、3位『そして、私たちは愛に帰る』（ドイツ/トルコ、監督/ファティ・アキン、主演/バーキ・ダヴラク）、4位『人生に乾杯!』（ハンガリー、監督/ガーボル・ロホニ、主演/エミル・ケレシュ）、5位『グラン・トリノ』（アメリカ、監督・主演/クリント・イーストウッド）、6位『愛を読むひと』（アメリカ、監督/スティーヴン・ダルドリー、主演/ケイト・ウィンスレット）、7位『スラムドッグ\$ミリオネア』（イギリス/アメリカ、監督/ダニー・ボイル、主演/デヴ・パテル）、8位『母なる証明』（韓国、監督/ポン・ジュノ、主演/キム・ヘジャ）、9位『シリアの花嫁』（イスラエル/フランス/ドイツ、監督/エラン・リクリス、主演/ヒアム・アッバス）、10位『子供の情景』（イラン/フランス、監督/ハナ・マフマルバフ、主演/ニクバクト・ノルーズ）、次点タイ『パイレーツ・ロック』（イギリス/ドイツ、監督/リチャード・カーティス、主演/フィリップ・シーモア・ホフマン）、次点タイ『ポー川のひかり』（イタリア、監督/エルマンノ・オルミ、主演/ラズ・デガン）

前回例会の報告

11月18日の例会では、1971年に上映された戦争映画の名作『ジョニーは戦場へ行った』を鑑賞しました。懐かしさも感じながら重たい感じで鑑賞しました。例会後に運営委員会を開いていないため意見の集約はできていませんが、上映当時とは社会意識の変化があるので、例会は、基本的には新作が良かったかもしれません。参加会員116人。

その他の報告とお知らせ

12月9日(水)に、加古川総合文化センターで、兵庫県映画センター主催の『60歳のラブレター』上映会に協力しました。400名を超える入場者があり盛会でした。

前号でもお知らせしましたが、加古川市出身のニューヨーク在住の松下俊文監督の初の長編作『パチャママの贈りもの』が1月30日からワーナーマイカル加古川で上映されます。関心のある方は、この機会に鑑賞しましょう。

また、2月16日(火)に、加古川総合文化センターで、兵庫県映画センター主催の『愛を読む人』上映会に協力します。

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200～300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 168 人 (11月18日現在)